

お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

3月から12歳未満の子どもたちの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

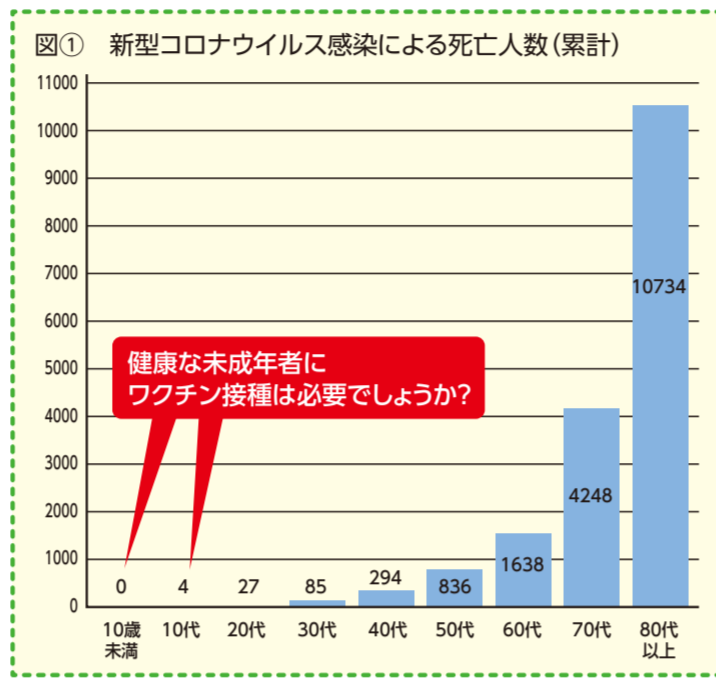
未成年者のワクチン接種後 重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか。厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染はこれまでに4人いるが、その内の3人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり、これまでにコロナ感染で死亡した健康な未成年者はただの一人もいないし、重症化もほとんどない。

一方でオミクロン株も含め、新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータが証明していると言える。

ところが未成年者がそもそも必要ないはずのワクチンを打つことにより、多くの重篤者・命の危険が切迫している患者の「と」や死者が出てしまっている。昨年10月30日には13歳の少年がファイザー製ワクチンを接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没しているところを発見されている。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1606人にも上り、そのうち606人も重篤者**と報告されている。この状況が招いた最大の要因は、国や自治体が躍起になって広めた「周りの人のために接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要ななくても、子どもや若者も「家族や会社や社会のために接種すべき」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。

しかしその目的のために、子どもや若者に自らの命や健康を賭かせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南出市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病理学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。



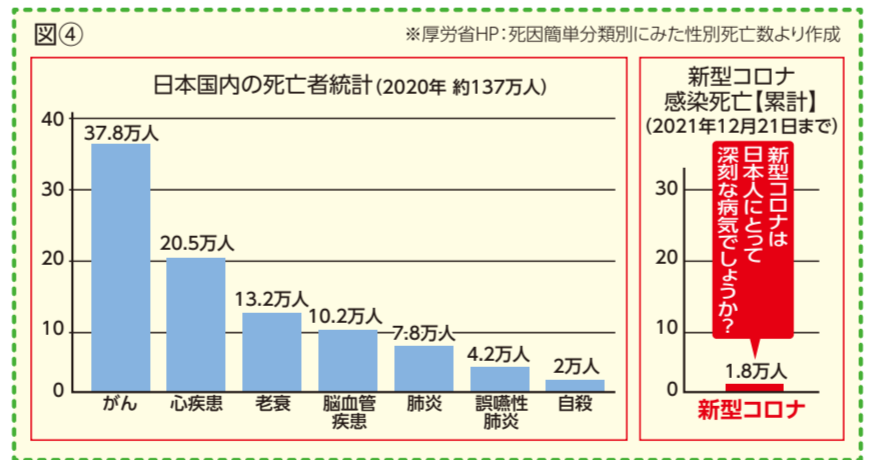
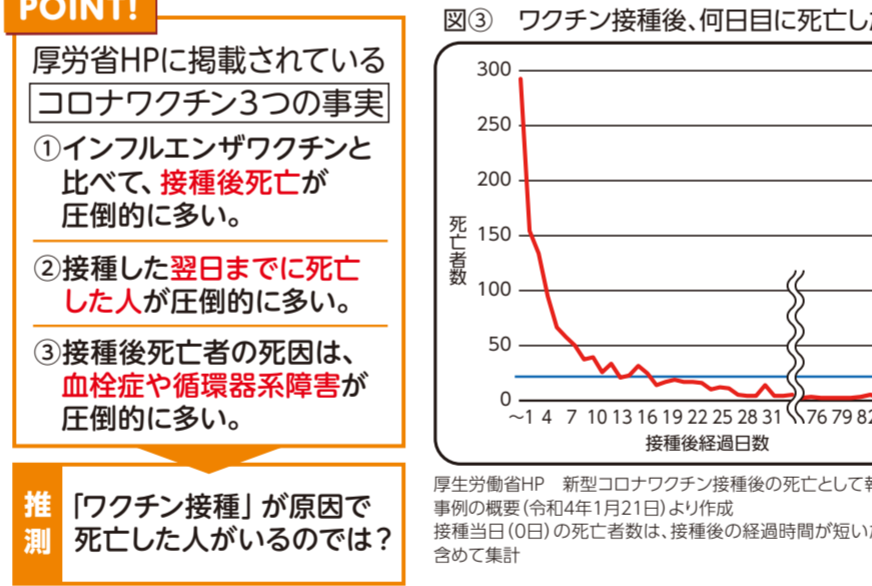
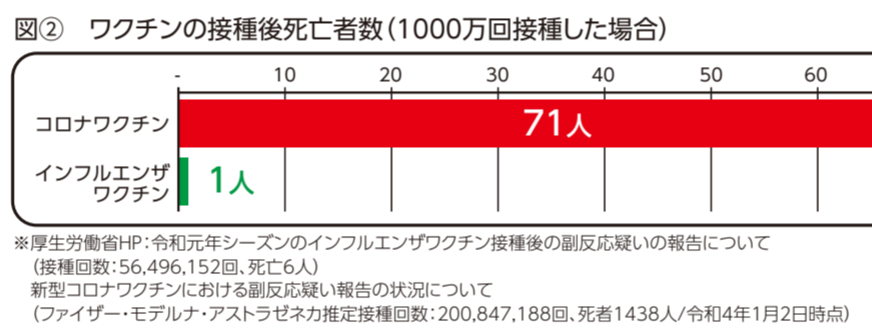
健康な未成年者にワクチン接種は必要でしょうか？

1606人にも上り、そのうち606人も重篤者

ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない？

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で**1444人**（ファイザー製1377人、モデルナ製66人、アストラゼネカ製1人）に達している。しかしワクチン接種会場で突然死亡した場合は、厚労省は人として因果関係を認めていない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り**「接種が原因で多くの方が亡くなった」ということはありません**。という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。

しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にはたまたま大勢の人が死亡するのにも、インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだろうか。図②の理由も「たまたまの死亡」ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そう考えると、接種が原因で多くの方が亡くなったという統計は、この統計はワクチン接種と死亡との因果関係を示唆しているのではないだろうか。



接種後に突然亡くなったたり重大な健康被害に遭ったり後遺症が残ったりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまうのではないだろうか。また「因果関係なし・不明」という発表に納得できるだろうか？そして子どもにも接種を勧めたことを後悔し続けるのではないだろうか？

もちろん個々の因果関係は分からないが、死亡者の死因も千差万別ではなく、**血栓症**(血の塊が血管を塞ぐ病気)や**循環器系**(心臓と、全身に血液を循環させる血管ネットワーク)障害が圧倒的に多い。この偏った分布と死因を見る限り、ワクチンにはまだ明らかにされていない何らかの**有害性**があり、それが原因でこれまでに健康な子どもや若者も含め、多くの人が死亡した可能性は決して否定できないだろう。

ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことはありません。」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の増加などの症状だけでなく、閉経した生理が再開したという副反応まで報告されている。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えてきている。

ワクチン接種に関しては、他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起

ついている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「臨床試験中の実験試薬」だからだ。それは人体への長期的な影響が誰にも予見できないことを意味する。

野野太郎元ワクチン担当大臣は、自身のブログで「治験が省略されることなく実施され、長期的な安全性について特段の不安があるというところはありません。」と断言している。ところが事実は違っていて、厚労省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起ころうか分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。

また、ワクチンが生殖機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。ファイザー社が厚労省に提出している薬物動態試験の概要文には、ワクチンの成分

が確実に**卵巣や精巣**に集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「不妊にならない」との記載は一言もなく、ただ「現時点ではワクチン接種が不妊の原因になるといって科学的な根拠は報告されていません。」と書いてあるだけだ。

最後に想像してほしい。もしあなたの子どもや孫がワクチン

本当に必要ですか？

子どもへのワクチン

(賛同団体) 岡山・倉敷新型コロナウイルス感染対策市民審議会

「簡単!10分で分かる 新型コロナウイルスの危険性」
井上正康先生講演会動画

参考文獻
ゴーマニズム宣言SPECIAL コロナ論4 (扶桑社) 著書:小林 よしのり (2021年11月18日)

ここでは、ワクチンの「危険性」の一部を紹介しました。掲載できなかった、その他の詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 143,473,527円(1月31日20時15分時点)

右二次元コードからもご覧頂けます。▶

<https://jccovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記二次元コードよりご意見・ご感想をお寄せください

メール mail@dbank.jp

株式会社ゆうネット
新型コロナウイルス関連情報発信センター
代表取締役 堤 猛 (ご意見はメールよりお願いします)
福岡県福岡市中央区天神4-1-17 2F TEL 092-235-2470

※ここでの内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。